

平成 22 年度 第 4 回会計学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 23 年 2 月 7 日 (月) 午後 10 時 00 分から 12 時 00 分まで
- II. 会場 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者: 岸田委員長、椎名副委員長、河崎委員、金川委員、松本委員、木本委員
阿部委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

まず、前回に引き続き授業デザインに関する考え方から議論がはじまった。従来型の教育の問題点や学生の学習意欲の減退等について活発な議論がなされたが、学士力をベースとしながら、学生が中心となるグループ学習を取り入れ、単位の習得を目的とする従来型の授業から脱却し、自ら学ぶ意欲を喚起するような授業デザインを考えることが提唱され、了承された。また、教育のオープン化や社会とのつながりを重視した教育、学びの成果を社会に還元できるような環境を構築していくことの重要性を確認し、学生が大学に至までに各種教育機関での学習プロセスや学習成果を所与の能力として、理想的かつ本質的な学びのモデルを構築することとなった。

続いて会計分野における授業デザインの構築について議論が行われた。現在のゼミナール形式の授業運営手法を一般の授業に援用する案、これまでとは根本的に科目の配置や内容の再考が必要になるとの指摘、学生気質の変化をどのように授業に反映させるべきか考察すべきである等、さまざまな観点からの指摘や意見が出された。結果、骨幹から授業を再構築する必要があること、カリキュラムの再編成、教員チームによる授業運営や設計が必要であること、科目間や学部レベルではなく大学規模でのガバナンス強化等が必要であること、などを授業デザイン構築の際に考慮することが確認された。

以上のような議論を経て、具体的には学士力の到達目標から基礎レベルと応用レベルに分けて授業デザインを考えることとなった。

(1) 基礎レベル：会計学総論

到達目標として考慮すべき項目

- 1. 会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる
- 2. 組織活動の財やサービスを計数的に測定し、伝達できる

会計マインド教育をベースに会計を学ぶことの意義や重要性の理解を目指す。産学

連携を視野に入れ、ゲーム的な要素も組み込みながら、具体例を多く用い、学生の学ぶ意欲を促す授業デザインを考える。

(2) 応用レベル：会計情報システム

到達目標として考慮すべき項目

3. 組織の経済活動の実態を会計情報として体系的に把握し、問題発見ができる

4. 会計情報の有用性を理解し、問題解決や意思決定に応用できる

特に財務諸表の分析手法を活用し、財政状態、経営成績、資金運用上の問題を発見できるという到達度に重点を置き、大学間連携やクラウドの利用等を想定しながら理想的な授業デザインを考える。

以上のような2つの授業デザインを踏まえ、次回は ICT をどのように活用していくかを議論していくこととなった。

2. 次回までの宿題

(1) 会計学総論

(2) 会計情報システム

の2科目について、具体的な授業デザインを考え、どの部分に ICT を活用するか、どのような方法で利用するかを具体的に提案する。

3. 次回の打ち合わせ会

日時：2011年2月26日 10時00分～12時00分

場所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

以上